

「動力車新聞」のデマ宣伝を糾弾する

1979年5月15日

(号外その15)

日刊 動力車新聞

79.5.21

No. 125

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二五八〇九(公衆電話)22七二〇七

三里塚・ジェット闘争を裏切った「本部」暴力集団の居直り！

「本部」暴力集団は五月一五日付「動力車新聞・号外(その一五)」をもって、「ジェット闘争を裏切ったのは中野一味」なるデマ宣伝を行ってきた。この間、(その一四)について、そのデマ情報としての正体を「日刊」および「速報」で暴露されてしまし、「千葉は財政的に破産する」「誰からも認知されず相手にされない徒党集団」というデマ宣伝の破産に直面した暴力集団の新たなデマ宣伝である。われわれはこれまでと同じように、事実をもってこのデマ宣伝を粉砕する。原則に踏まえた闘いの実践、その真実が何よりも強いのだということを、近い将来、「本部」暴力集団は必ず思い知らされるであろう。

苦しい虚勢?!

―四苦八苦でデマをねつ造―

このデマ情報(その一五)はまず、「オルグ」の中で明らかになったと称する噴飯もののデマを書き連ねている。

冒頭部分には「ある支部では」他支部や中核派の動員部隊一〇〇名結成大会を行う支部組合員一五名」「又ある支部では一〇名そこで結成大会」などと書かれている。

「ある支部」などと書かずはつきりと支部名を書けばいいのに書いたとたんに嘘がバレるから書けないのだ。

笑わせることには、「その多角的調査の過程で更に驚くべき事が判明しましたが現状では伏せることとし」と、ネタがつきて苦しい虚勢をはっている。やるなら黙ってやればいいのだ。

かくしようもない

「本部」の裏切り!

デマ情報(その一五)は二ページ目では「助役機関士」問題と「2・24確認」についてのデマを書き連ねている。

ここで言えることは、この下手くそなデマ・デッチ上げのピラの中から事実経過だけを追ってみても、それは「まず、動労本部」が当局(本社)と交渉して、その中味を千葉地本に一方的に押しつけようとした「事実だけがかくしようもなく浮び上ってくる」ということである。

岡山地本の「定年」直前の動労組合員を急拠「助役」に発令させて、「助役機関士」として千葉へ送り込んだり、ジェット燃料用の機関車を岡山から(福知山地本や米子地本からは「全国闘争」としての三里塚・ジェット闘争を破壊するもの)として拒否された)送り出すという作業が進められていたという事実とこのデマピラの主張をどう説明するのか。

「2・24確認」は本部・本社の仕切りではないのか!

「2・24確認」に至っては何をか言わんやである。

まず、第一に二月二四日、本社で「本部」と話し合った千葉地本の役員は三役と水野組織部長であり、何故にその場にいなかった山口交渉部長を「会話」入りで登場させるのか。

第二に、「本部は今までみなさんの前で言わなかったことを言います」などときれい事を書いているが、このデマピラの内容は「青年部」が方針書や機関紙の中で展開してきたデマと全く同じだということ。

第三に、「確認」としてデマピラに載せられているものは「本部」・本社交渉時に当局側から出されたメモであり、2・24の時点で軟弱な「本部」の姿勢を千葉地本三役と組織部長に迫及され進退きわまった「本部」暴力集団が、中執の討議にもかけず、3・5全国戦長の方針書の中へスベリ込ませ、全国の代表者から迫及されたシロモノだということ。

第四に、しかも、これが革マル機関紙「解放」にそのまま載せられ、動労青年部と共に「2・24千葉地本の裏切り」としてデマ宣伝が行われたという事実。

以上の事実を指摘するだけでこのデマピラのままにデマピラとしての姿が鮮明となる。

このようなデマ宣伝が真実の重みによって破産することは当然であり、あえてこのようなデマ宣伝を行うということに、暴力集団のどうにもならない行き詰まりと、逆に、勝利に向ってすすみます前進する動労千葉の姿がはっきりと示されているのである。